「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。掲載料は無料です。

6 JUN

朗読と音楽の調べ「石川善助・その生と言葉の軌跡」
6月15日(土) 13:30▶14:30 有料 要申込

講　師　芝原弘（黒色綺譚カナリア派／コマイぬ）　菊池佳南（青年団／うさぎストライプ）
場所 仙台文学館　定員 50名（先着）
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

企画展「戦争と庶民のくらし」体験②「戦時資料を見てみよう、さわってみよう」
6月22日(土) 10:00▶16:00 有料 申込不要

場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

展示関連企画：ふらり下飯田・三本塚 田んぼを歩いて歴史めぐり
6月22日(土) 10:15▶12:30 有料 要申込

講　師　遠藤龍弘氏（薬王寺副住職）、小野吉信氏（三本塚町内会会長）
場所 せんだい3.11メモリアル交流館　定員 15名（先着）
主催者 せんだい3.11メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

令和6年度　館長講座　第3回「歴史博物館グローバル紀行」
6月22日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講　師　阿子島香氏（東北歴史博物館館長）
場所 東北歴史博物館3階講堂　定員 280名（先着）
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

企画展「戦争と庶民のくらし」講座①「近代の戦争と庶民のくらし」
6月29日(土) 13:30▶15:00 有料 申込不要

講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

連続講座「石川善助を知ろう」③「石川善助と宮沢賢治をつなぐもの」
6月29日(土) 13:30▶15:00 有料 要申込

講　師　宮川健郎氏（一般財団法人大阪国際児童文学振興財団理事長）
場所 仙台文学館　定員 60名（先着）
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

7 JUL

企画展「戦争と庶民のくらし」講座②「近代仙台と戦没者祭祀」
7月6日(土) 13:30▶15:00 有料 申込不要

講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

展示関連企画：ふらり荒浜 七夕飾りとあそぶ
7月7日(日) 9:45▶13:00 有料 要申込

場所 せんだい3.11メモリアル交流館　定員 15名（先着）
主催者 せんだい3.11メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

仙台文学館ゼミナール2024：小池光 短歌講座　第163回
7月13日(土) 13:30▶15:40 有料 要申込

講　師　小池光氏（歌人）　※申込締切6/18（火）
場所 仙台文学館　定員 70名
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

前期基礎講座「吉野作造の東アジアをみる眼〜吉野作造は中国及び朝鮮をどのように語ったのか」：『日支交渉論』と「満韓を視察して」を中心に月刊誌等の論文を読む（4）
7月13日(土) 14:00▶16:00 無料 要申込

講　師　氏家仁氏（吉野作造記念館館長）
場所 吉野作造記念館　定員 30名
主催者 吉野作造記念館　問合先 TEL 0229-23-7100

第65回 名著への旅

『創造論者 VS. 無神論者』

岡本亮輔 著
講談社

（2023年9月7日初版発行）

生物は進化を経て今の姿になったのか？　それとも神によってあらかじめ設計されたものであったのか？　日本で教育を受けてきて後者を採用する人は限りなく少ないかもしれない。しかしアメリカでは、この二つの問いを巡って長くからの対立がある。本書は、そうした創造論者と無神論者（およびより徹底的な新無神論者）との戦いの歴史と現在を明瞭に論じてくれている。

両者の対立は、1925年にテネシー州の町デイトンでの反進化論法を犯したとされる新任教員スコープスをめぐる裁判から語られる。それ以降も、特に創造論者から教育をめぐる裁判闘争として展開されることとなる。他方、宗教の徹底的否定を主張する新無神論者も無神論を啓蒙するテキストを配布するなど「宗教化」している様子は、信じることのままならなさを感じさせる。

本書冒頭でも示される通り、現在の「宗教」のあり方は混沌としている。ジェダイやマラドーナ、空飛ぶスパゲティを信仰する人びともいれば、日常的には「神！」だの「聖地巡礼！」だの宗教的な言葉が用いられる。また、科学と陰謀論との共謀も散見される現代にあって、本書が紐解く論争は対岸の火事ではないだろう。　（寺）

参加体験記募集中！

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームよりお送りください。

第63号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第63号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

図書カード1,000円　図書カード1,000円　図書カード1,000円分

Q.1　平吹喜彦先生が専門にしている生態学の中の一分野は何学？　答え「景観生態学」

Q.2　生態学で大規模な環境の変化を何という？　答え「攪乱（かくらん）」

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カードが当たります**ので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先

〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間10:00〜16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第64号／発行日2024年4月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

オブザーバー：笹氣義幸　寺田征也（明星大学）　協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

© 笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります 詳しくは中面へ

仙台発 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2024. 4 第64号

学びの庭におじゃまします　ライフとワーク

男性の家事を宮城と全国で比べると

宮城学院女子大学 生活科学部 准教授
（家族社会学・ジェンダー論）
藤田　嘉代子 先生

経営側と働く側は対話していますか？

東北工業大学 ライフデザイン学部 准教授
（アメリカ労働市場論・労働経済学・人的資源管理論・マーケティング論）
佐藤　飛鳥 先生

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『創造論者 VS. 無神論者』（岡本亮輔）
- Voice Park

ISO 14001 JQA-EM4031

Web版 随時更新中！ まなびのめ
http://manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は **Web版に掲載**しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催

トワイライトサロン「土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 17:00▶17:45 無料 申込不要

講　師　土佐誠氏（仙台市天文台名誉台長）
場所 仙台市天文台オープンスペース
主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300

展示

文化財レスキュー＋新収蔵資料展
〜5月6日(月) 9:00▶17:00 無料 申込不要

※常設展は有料
場所 石巻市博物館企画展示室
主催者 石巻市博物館　問合先 TEL 0225-98-4831

東日本大震災文庫展14「震災と交通機関 ―未来へつなぐ復興の礎―」
〜5月26日(日) 9:00▶17:00 無料 申込不要

場所 宮城県図書館2階展示室
主催者 宮城県図書館　震災文庫担当　問合先 TEL 022-377-8498

瑞巌寺124世 鄧州全忠禅師展 ―没後100年を記念して―
〜6月4日(火) 8:30▶15:30 有料 申込不要

場所 瑞巌寺宝物館
主催者 瑞巌寺　問合先 TEL 022-354-2023

ミニ企画展「東北の縄文遺跡 ―仙台市上野遺跡―」
〜6月9日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要

（入館は16:15まで）
場所 仙台市縄文の森広場
主催者 仙台市縄文の森広場　問合先 TEL 022-307-5665

プラネタリウム100周年企画展示「仙台のプラネタリウム史」
〜6月30日(日) 9:00▶17:00 有料 申込不要

場所 仙台市天文台展示室
主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300

企画展：ふらり海手バスさんぽ 市バスでおでかけ6ルート
〜7月31日(水) 10:00▶17:00 無料 申込不要

場所 せんだい3.11メモリアル交流館
主催者 せんだい3.11メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

第二回布施辰治特集展「布施辰治と家族の肖像」
〜8月12日(月) 9:00▶17:00 有料 申込不要

場所 石巻市博物館常設展示室
主催者 石巻市博物館　問合先 TEL 0225-98-4831

企画展 仙台市博物館再開館記念祭「こりゃ めでたい」
4月2日(火)〜5月26日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要

（入館は16:15まで）
場所 仙台市博物館
主催者 仙台市博物館　問合先 TEL 022-225-3074

学びの庭におじゃまします

「4月から新社会人」という方もいらっしゃるでしょう。
「ライフワークバランス」や「働き方改革」など、働くことと暮らしや生き方に関わる問題に関心が高まっています。
宮城学院女子大学・藤田嘉代子先生に、ジェンダーの視点から「ライフとワーク」のお話をうかがいました。

男性の家事を宮城と全国で比べると

「女の子だから」の期待があった頃

アンケートやインタビューなどの手法を用いて、家族、ジェンダー、そして今回のテーマであるワークライフバランスなどを研究してきました。こうした問題に関心を持つようになったのは、私自身の経験が大きく関わっています。

私は父がサラリーマン、母が専業主婦という家に生まれました。父はモーレツサラリーマンで、母は高卒で就職し職場結婚して家庭に入るという、当時としては典型的な、親が性別役割分業の、近代家族の子どもだったのです。

しかし高校生にもなると、「自分も母のようになりたい」とは思えなくなります。共学の進学校でしたが、男子は四年制、女子は短大へ進む人が多い中、私は「四年制大学に行って、将来はフルタイムで働こう」と思うようになります。両親も賛成し、父は「自分は大学まで行けなかったから」と応援してくれました。

ところが、高卒後いわゆる宅浪していたとき、父が急に亡くなります。毎日深夜まで働いていたため過労死だったと思いますが、心臓発作を起こし事故のような亡くなり方でした。これをきっかけに私たちの生活は激変しました。

母は父の会社でフルタイム雇用してもらえることになったのはよかったですが、20年ぶりに会社員になったのですから仕事と家庭のマネジメントは大変でした。いきおい家の中のあれこれは、私の役割となりました。たまたま、予備校にも行かず家にいた私に、母が家事やきょうだいの世話を期待したのは当然でしょう。もちろん家の状況が急変したわけですから私もアルバイトをしたり買い物や食事の用意をしたり、家族のためにという思いから頑張りました。

しかし今とは異なりほぼ一般入試のみの大学受験は熾烈で、家のことに追われて十分勉強できなかった私は翌年も志望校には受からず、当時女子では珍しかった二浪をします。二浪目は予備校に通いましたが家のことをやりながらですのでさしずめヤングケアラーとの二足ですね。進学したのは教育大学で、第二志望でもあり、家から通えて、社会や文化のことを広く学べそうだということで、将来の展望はぼんやりしたものでした。ただ社会科学を全般的に学ぶ学科だったのでその中に社会学の授業があり、そこでジェンダーやフェミニズムの思想に触れ、結果として社会学の道へと進むことになったのです。

宮城の男性はかなり家事をする？

社会学の授業は、それまで当たり前だと思っていた社会の在り方について問い直す機会となりました。この頃は、女性が結婚して家族を持つと労働者として二流にならざるをえないという資本制と家父長制の関連を論じた上野千鶴子さんなどが論壇に出てきて、むさぼるように読みました。自分が抱えてきた困難に、学問的にアプローチできることを知ったのです。

私は大学院の在学中に結婚し、出産し、育児をしながら研究を進めました。夫は出張が多い会社員で家の中のことはどうしても私に集中しがちです。そうこうして育児と研究がうまく回るようになってきた頃、手助けしてくれた母親が肺がん、祖母が認知症であることがわかり、子育てしながら親たちの闘病生活を支えるというサバイバルな「サンドイッチ」期間を過ごします。この期間はあまり記憶にないほど大変でしたが、家族を研究する立場となると示唆が大きかったと感じます。

子どもを持つ親たちがどのように家事や育児を分担しているのか、家庭ごとの実態は見えづらく、当時本当に知りたかったので、保育園のママ友たちに協力してもらってこれを研究することにしました。家族社会学ではアンケート調査のような手法ですでに多く研究されていましたけれども、自分なりに納得できるものは少なく、家事は個人によって捉え方が異なるのでそこに焦点を当ててみようとインタビューを始めました。その後、子育て中の女性研究者を対象にしている民間の助成金をもらって研究を進め、博士号を取得した後研究者の職を得ました。

私の社会調査の例を挙げましょう。2020年に宮城県を中心に約400名の男性を対象に、家事に関するアンケート調査を行いました。この調査では家事を細かく18項目に分け、夫婦のどちらがどの程度行っているかを答えていただきました。

全国的な調査もあり（社会生活基本調査）、重なる項目では比較もできます。ちなみに6歳未満の子どもがいる夫婦の1週間あたりの「家事関連時間」は、全国平均が夫82分に対して妻450分、宮城県では夫85分に対して妻462分と、どちらも5倍以上の差があって大きな違いはありません。

しかし私の調査で家事の具体的な内容を細かく分類して調べてみると、宮城県の男性は全国平均よりも家事・育児に積極的であることが分かりました。たとえば風呂洗い、部屋の掃除、食事の後片付けなどは、全国では「まったくしない」男性が4割前後いるのに対して、宮城県では1割程度です。

回答者の違いもありますから、単純な比較はできません。しかし私が2019年から翌年にかけて仙台市内の高齢男性に行ったインタビュー調査でも、予想よりもずっと、家事や育児、さらには介護や地域活動に積極的であることが分かりました。たとえば私の地元である大阪と比べると、職住が近接していて通勤時間が短かかったり、農家に生まれ育って子どもの時から家事を担っていたりすることも関係していそうです。

家事や育児は大変なだけでなく楽しさもありますし、歳をとって一人で暮らすことになっても、自分の生活と健康を守る技術や知識が身につくという大きなメリットがあります。宮城県の男性の皆さんには、以上の調査結果に満足することなく、いっそう家事に励んでいただきたいと思います（笑）。

誰もが働いて生活を楽しめる社会へ

社会学では調査データから統計的に分かることや、その要因などを考察します。夫婦間で家事の時間が極端に異なる理由の説明としては、持っている資源の差、具体的には収入の差が力関係を生み、夫が妻に家事を担わせることになるという「相対的資源仮説」が有力です。

男女雇用機会均等法が成立して約30年、産休・育休を取った女性が定年までフルタイムで働くこともかなり増えてきました。しかし実際には今もなお、雇用・業務・昇進などで女性と男性に差をつける企業は多く、子どもができると女性だけがフルタイムの仕事を手放さざるを得ないといった現実があります。家事の負担と責任は女性に大きく偏ったままで、仕事に専念できる男性との収入や地位の面での格差は明らかです。

近年は政府も企業もワークライフバランス、仕事と生活の調和というスローガンを掲げていますが、まだまだ実体をともなっているとは言えません。しかし本学で若い女性たちと接していると、仕事や家庭に関する考え方が、はっきりと変わりつつあることが実感できます。私が所属する生活文化デザイン学科では、中学・高校の家庭科教員免許の取得が可能です。日本の現状や海外の取り組みを学んだ彼女たちが教壇に立つことで、この変化はさらに進むでしょう。また彼女たちの教育実習先を訪ねると、中学でも高校でも、家庭科の授業の課題に楽しく熱心に取り組む男子生徒たちの姿が見られます。

日本の少子高齢化・労働人口減少という大問題は、ずっと前から分かっていました。あわてて形だけのワークライフバランスに取り組んでも、解決はできません。誰もが長期的なライフプランに基づいて、性別に関係なく働け、家事や育児を担い、生活を楽しめる社会を本氣で目指す必要があります。それはたとえば、誰もが夕方5時には業務を終え、預けていた子どもを迎えに行ったり買い物をしたりして、6時には帰宅できる社会です。

さらに言えば結婚制度や家族のあり方も、変えるべき時期に来ていると思います。婚姻関係にはない男女や同性のカップルが、一緒に暮らしたり子どもを育てたりすることは実際にはかなり見られるので法的にも認めて支援すべきです。外国人を含む多様な人々、多様な価値観を受け入れる寛容さも、これまで以上に必要でしょう。ワークライフバランスについては、政府も企業も、そして私たちも、このように長い人生の全体、そして社会全体に視野を広げて考える必要があると思います。

（取材＝2024年2月14日／
宮城学院女子大学　家政館4階　家族社会学研究室にて）

宮城学院女子大学　生活科学部　准教授
専門＝家族社会学・ジェンダー論

藤田　嘉代子 先生

《プロフィール》（ふじた・かよこ）1969年大阪府生まれ。大阪教育大学教育学部卒業。大阪大学大学院 人間科学研究科 後期博士課程修了。博士（人間科学）。大阪大学男女協働推進センター助教を経て、2017年より現職。
共著書に『フェミニズム・ジェンダー研究の挑戦：オルタナティブな社会の構想』（2022年／松香堂書店）など。

懸賞

図書カードを当てよう！ **まなびのめクイズ**

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 藤田先生の調査で「家事をまったくしない夫」宮城県では約何割？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。佐藤飛鳥先生の記事もご覧ください。

応募方法 はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2024年6月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

多くの業界で、就職後の若者の定着率向上が課題となっているようですが、
要因を「こらえ性がない」などと本人の問題だけにするわけにはいかないでしょう。
アメリカの先進事例などからその改善の方向性が見い出せるのか、東北工業大学・佐藤飛鳥先生にお話をうかがいました。

経営側と働く側は対話していま すか？

「人的資源管理」を知っていますか？

アメリカの労働市場や企業経営について研究しながら、実際に新商品開発に関わったり、学生たちにそれを体験させる講義をしています。本学では地域課題の解決に挑む「プロジェクト研究所」を 20 ほど展開していますが、私はその一つである「マーケティングサポート研究所」の代表者です。地元の事業者の皆さんのため、他の先生方や学外のコンサルタントの方と共に、商品開発・販路の開拓・宣伝広報などに取り組んできました。

マーケティングは、消費者のニーズを調べ、それに応える商品やサービスを開発し、供給するまでの全過程です。しかし中小企業の多くはその重要性を認識していても、担当者を置く余裕がないなどの理由から、取り組みは十分ではありません。

「良いものを作れば売れる」「長年作ってきたものを変えたくない」という姿勢で、売上が伸び続けているなら良いでしょう。しかし社会も消費者の意識も、大きく変化し続けているのが現代です。算出方法や業種にもよりますが、「日本の企業の平均寿命は約 30 年」とも言われます。たとえ何十年と成り立っていた事業も、変化に適応できなければ継続さえ望めません。

それでは企業がマーケティングを機能させ、変化の激しい時代を生き抜くために、もっとも大切なものは何でしょうか。私はそれは「人」だと考えます。

東北工業大学　ライフデザイン学部　准教授
専門＝アメリカ労働市場論・労働経済学・人的資源管理論・マーケティング論

佐藤　飛鳥 先生

《プロフィール》（さとう・あすか）1976 年岐阜県生まれ。金沢大学経済学部卒業。金沢大学大学院 社会環境科学研究科修了。博士（経済学）。文部科学省「知的クラスター創成事業」常勤研究員を経て、2008 年、東北工業大学ライフデザイン学部に講師として着任。2011 年より現職。東北工業大学マーケティングサポート研究所所長。共編著書に『入門 人的資源管理論』、共著書に『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』、『経営労務事典』、『明日を生きる人的資源管理入門』など。

経営学では、経営資源をヒト・モノ・カネ・情報の 4 つの要素で考えます。ヒトに関する企業の活動は、長らく労務管理や人事管理と呼ばれてきました。しかしアメリカではヒューマン・リソース・マネジメントという言葉が定着し、日本でもこれを訳した「人的資源管理」という言葉が普及しつつあります。そして私たち研究者はこの言葉を、「4 つの資源の中でヒトこそがもっとも重要だ」という考えで用いているのです。

「人も資源」とか「従業員を管理」と聞いて、抵抗を感じる方もいるかもしれません。「家族的な経営」を否定はしませんが、もし業績が上がっていないのであれば、経営学の成果も取り入れて、合理的な経営を目指してはいかがでしょうか。経営資源のうち、モノもカネも情報もたしかに大切です。しかしそれらを生み出したり使いこなすのは人ですから、経営でまず優先するべきは従業員のマネジメントだと考えましょう。

これは「働く人を大切に」とか「従業員こそ宝」といった、スローガンの話ではありません。マーケティングと同様、働く人についてもその個人の生活や価値観を理解することから始め、制度を改めたり新たに創設したりなどした上で、その成果を評価して次に活かすべきです。マネジメントとはこうした活動の全体であり、日本語では「管理」となります。そしてこの「人的資源管理」が、私の主な研究テーマの一つです。

リテンション・マネジメントをしていますか？

今の日本では、働く側はかつてのように「会社任せ」では安心できず、企業の側は少子化で労働人口が減り続ける現実を直視せざるを得ません。経営側はこれまで以上に働く人のことをよく知ってその生活を考える必要がありますし、働く側も経営をよく知って、そのあり方を考える必要があります。

もちろん相互の対話は絶対に欠かせません。対話は、労働条件や会社の今後をめぐる真剣なやり取りになることもあるでしょう。アメリカでは昨年、自動車業界の組合が企業の枠を超えた大規模なストライキを行いました。しかし日本では、組合の組織率が 16％をわずかに超えるほどしかありません。これは経営側が、組合を通してではなく一人ひとりの働き手との、対話の場と時間を持つ必要があるということでもあります。

実はアメリカでは、この点でも先行しています。特に大企業間や成長産業では人材の争奪戦が激しく、採用後・獲得後もリテンション、日本語にすれば「引き留め」のマネジメントがもはや常識なのです。報酬を上げることはもちろん有効ですが、きわめて高度な技能や知識、実績を持つタレント人材は、収入や付加給付面だけでは判断しません。働きやすさや私生活への配慮、自分がどれだけ必要とされ、任される仕事でどのように成長できるかなどを総合的に考えて、働き続けたり移籍したりするのです。従って上司や経営側は、対話によって常にそうしたニーズを把握し、応えようとします。

こうした「リテンション・マネジメント」は日本でも、また一般の従業員に対しても欠かせません。若い世代を中心に、より良い収入や働き方を目指して転職することが当たり前になった現在では、積極的かつ制度的に取り組む必要があるのです。

上司と部下が二人だけで行うミーティングを「1on1（ワンオンワン）」と言います。これは部下を評価したり管理したりするための面談とは違う、双方向的なコミュニケーションです。プライバシーへの配慮はもちろん必要ですが、上司は仕事だけでなく経済状態や家族のことを含む生活全般について部下の話を聞き、働き方や会社の経営についての意見も述べてもらいます。

双方の就業時間内に行うため、これをムダだとか現実的ではないと考える経営者もいます。しかし一定の時間的コストをかけてでも、長期的にはそれを上回るリターンが期待できることは明らかです。せっかく仕事を覚えた人材の流出を食い止め、代わりの従業員の採用・教育コストといった損失を防げるからです。また上司や経営陣も、新たな事業や業務改善のヒントが得られたり、互いの信頼を深めたりすることで自分たちも働きやすくなるなどの効果があります。

ワークとライフの「統合」を考えませんか？

私は学生たちの就職活動のサポートもしています。今は学生側の「売り手市場」ではありますが、企業研究の方法や求人票の見るべきポイントなど、細かい指導を心がけています。

一方で統計上、長期にわたり、四年制大学の新卒者のうち約 3 割が 3 年以内に辞めています (753 問題)。仕事の内容、働き方、職場の雰囲気など理由はいろいろでしょうし、学生の側も就活の際にそれらをもっとよく調べ、考えるべきです。しかし同じことは、実は採用する企業の側にも言えます。「募集しても人が来ない」「若い人はすぐ辞める」と嘆くだけでなく、若者の感覚や考え方を知って理解するよう努め、それを踏まえて情報発信や採用活動を行うなど、もっとよく調べ、考えていただくことも必要です。

また採用後も、今は「仕事は見て覚えろ」では通用しません

から、教育プログラムを整備する必要があります。また社内の業務全体を細かく書き出して説明すれば、他の部署の仕事の重要性を理解したり、本人が将来像や目標を明確に描けたりするようにもなるでしょう。

アメリカはもはや突出した経済大国ではありませんが、今もなお他に先がけて新たな価値を生み出そう、失敗を恐れずに前に進もうとする活氣があります。経営面でも働き方や生き方の面でも、学ぶべきことは少なくありません。日本の文化や環境に合わせて、取捨選択やアレンジをすれば良いのです。

ワーク・ライフ・バランスという言葉は、日本でも定着してきました。労働時間の短縮や私生活の充実を目指す取り組みはもちろん大切です。しかしアメリカでは既に、これを超える「ワーク・ライフ・インテグレーション」という概念が広まりつつあります。インテグレーションは「統合」ですね。

仕事と私生活のバランスというと、100 のものを何％ずつに分けるのか、1 日を何時間ずつに分けるのか、という発想になりがちです。しかしライフは生活であるだけでなく「人生」でもありますから、楽しく働けることを優先して仕事や職場を選んだり、家事を大切な労働と考えたり、育児を自分も成長できる貴重な機会と捉えたり、標準や伝統に縛られない自分らしいライフプランで生きる道もあって良いはずです。ライフとワークを分けないこうした生き方をしたい人は、若者を中心にアメリカだけでなく日本でも増えていますし、それを許容したり前提としたりする企業文化も広がりつつあります。

今年、私が筆頭編集者として企画した『入門 人的資源管理論』という本が出る予定です。大学生だけでなく、企業の経営者や管理職にとっても、そして働いている人にとっても、学びと氣づきに満ちた本になります。ぜひ手にとっていただいて、お仕事や生活に活かしていただければと願っています。

（取材＝ 2024 年 2 月 19 日／東北工業大学 長町キャンパス 3 号館 3 階　佐藤飛鳥研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 リテンション・マネジメントのため上司と部下が2人で行うミーティングを何という？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。藤田嘉代子先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2024年6月10日 当日消印有効

詳細情報も

Web版はより多くの情報を
随時更新しています。

まなびのめ｜ 検索

http://manabinome.com/

展示

特別展
「世界遺産　大シルクロード展」
4月 9日(火)～6月 9日(日)　9:30▶17:00　有料　申込不要

（発券は 16:30 まで）

場所 東北歴史博物館

主催者 東北歴史博物館、中国文物交流中心、河北新報社、Khb 東日本放送　問合先 TEL 022-368-0106

第 106 回企画展
「＜仙台の文化財めぐり：霊屋下セコイヤ類化石林＞うもれぎ、多様性」
4月26日(金)～7月21日(日)　9:00▶16:45　有料　申込不要

（入館は 16:15 まで）

場所 地底の森ミュージアム

主催者 地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153

開館 25 周年記念特別展
「詩人・石川善助をたずねて～北方への道のり」
4月27日(土)～6月30日(日)　9:00▶17:00　有料　申込不要

（入場は 16:30 まで）

場所 仙台文学館企画展示室

主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

開館 45 周年・
建物築 150 年記念　企画展
「戦争と庶民のくらし」
4月27日(土)～7月 7日(日)　9:00▶16:45　有料　申込不要

（入館は 16:15 まで）

場所 仙台市歴史民俗資料館

主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

4 APR

アースデイ講演会「大気の 46 億年史」
4月21日(日)　11:00▶12:30　無料　申込不要

講　師　井龍康文氏（東北大学大学院理学研究科教授）

場所 仙台市天文台加藤・小坂ホール　定員 50 名

主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300

令和 6 年度　館長講座　第 1 回
「歴史博物館グローバル紀行」
4月27日(土)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　阿子島香氏（東北歴史博物館館長）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂　定員 280 名（先着）

主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

2024 年度第 51 期相談員養成講座
「公開講座」第 1 回「家族との関係性を描く―家族理解と家族レジエンス―」
4月28日(日)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　茂木千明氏（仙台白百合女子大学人間学部准教授・臨床心理士）

場所 日立システムズホール 2 階研修室 2

主催者 社会福祉法人仙台いのちの電話　問合先 TEL 022-718-4401

宮城こどもホスピスのこれから
～ 2024 年度中の開設を目指して～
4月28日(日)　14:00▶17:00　有料　要申込

講　師　足立智昭氏（宮城学院女子大学名誉教授）

場所 日立システムズホール仙台 3 階エッグホール　定員 80 名（先着）

主催者 NPO 法人宮城こどもホスピスプロジェクト　問合先 info.miyagi.khp@gmail.com

連続講座「石川善助を知ろう」①
「仙台の文化活動と石川善助―天江富弥、スズキヘキとの関わりを中心に―」
4月29日(月・祝)　13:30▶15:00　有料　要申込

講　師　加藤理氏（文教大学教授）

場所 仙台文学館　定員 60 名（先着）

主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

5 MAY

第 27 回
『楽になりたい子育て講座』
～学びと練習～（全 6 回）
5月10日・17日・24日・31日・6月 7日・14日(金)　10:00▶12:00　有料　要申込

講　師　キャプネット・みやぎ　トレーナー

場所 仙台市福祉プラザ　定員 6 名程度

主催者 キャプネット・みやぎ　問合先 TEL 022-265-8867

参加体験記

「学び」イベント参加体験記

■せんだい豊齢学園公開講座　脳の健康づくり「睡眠と運動」
講　師：上埜高志氏（東北福祉大学教授）、
　　村上恵氏（（公財）仙台市健康福祉事業団健康増進センター運動指導員）
開催日：2024 年 2 月 2 日　13:15 ～ 15:30
場　所：仙台市シルバーセンター交流ホール
主　催：（公財）仙台市健康福祉事業団せんだい豊齢学園

50 歳以上を対象としたせんだい豊齢学園の公開講座です。内容は上埜氏の講演と村上氏による運動実技でした。

上埜氏は東北福祉大学の教授ですが、精神科医であり、睡眠に関する専門家です。午後の時間帯の講演でしたが、眠らせない講演でした。冒頭、これから述べる睡眠に関する説明内容は医学的見地から正しいものだが、これらのすべてをすぐに実践するのは難しいので、少しずつ試しながら自分に合う方法を見つけることが大切であると話します。それほど睡眠は個人差が大きいものということです。

睡眠は約 1 時間半のサイクルでレム睡眠とノンレム睡眠が交互に出現します。年齢によって睡眠の様子も変ります。成人では夜間睡眠、昼間覚醒というパターンですが、老人では入眠が早くなり、昼間の覚醒時間帯でも午前と午後に睡眠の時間が出現します。幼児や乳児と同じようになるのですね。また、睡眠時間も年齢とともに減少し、レム睡眠の比率が減少していきます。

深部体温（身体の中心部の温度）は睡眠と深く関係しています。入眠前から深部体温は低下し、睡眠の後半から覚醒に向けて上昇します。覚醒中は深部体温が高く維持され、睡眠に向け、入眠 2 時間くらい前から急激に下がっていきます。この落ち込みが大きい程、深い睡眠が増えることになります。

体内時計（＝概日リズム）は 24 時間＋ 10 分周期が平均であり、24 時間の地球のリズムとは次第にずれていきます。フリーランというのですが、地球のリズムに同調できるのは光があるためです。睡眠ホルモンのメラトニンは、光があると抑制されてしまいます。即ち夜間に光があると眠くなくなります。日本の夜の照明が欧米などの外国と比べると明るすぎると言われています。光、特に青い色は睡眠を阻害します。

そして、睡眠によいこととよくないことが整理できます。いくつか紹介すると、

・就寝 2 時間前までの軽い運動はよいが、就寝 2 時間前～直前の強い運動はよくない。
・テレビ、ネット、スマホは日没後 2 時間くらいまでは理想的だが、23 時以降はよくない。
・昼寝は午後 2 時頃、20 分以内はよく、夕方以降はよくない。
・明るさでは、昼間は明るく、就寝時は暗くするのがよく、就寝中の明かりはよくない。
・温度では、入眠前は暖かく、その後は低めの温度がよく、過剰な高温・低温環境はよくない。

厚労省が策定した「健康づくりのための睡眠指針 2014 －睡眠 12 箇条－」があります。この指針は現在改訂中ですが、その中に、次のような高齢者に対する条文があります。

「第 9 条　熟年世代では朝晩メリハリ、ひるまに適度な運動で良い睡眠」65 歳では必要な睡眠時間が約 1 時間少なくなることが考えられるので、寝床で過ごす時間を適正化することが大切です。そして日中に適度な運動を行うことは昼間の覚醒の度合いを維持向上し、睡眠と覚醒のリズムにメリハリをつけることに役立ち、睡眠を安定させ、熟睡感の向上にもつながると考えられます。運動といっても日常生活動作ぐらいに考え、歩くことが手っ取り早いとのことです。高齢者の運動不足は体温が上がらず、睡眠と覚醒のリズムがとれなくなります。

世界的にみると、日本人の睡眠不足が指摘されています。日本の国民は 4 人に 1 人は不眠症で悩んでいるとのことです。必要な睡眠時間が 8 時間というのは都市伝説であり、7 時間前後が標準です。これより睡眠時間が長くても短くても死亡リスクは増加すると言われています。前述の睡眠指針改正案では、成人の睡眠時間の目標値は 6 時間としています。短いようですが、これは男性の約 3 割、女性の約 4 割が 6 時間未満という現状を踏まえて、実現可能な目標を掲げているのではないかと講師は説明します。

村上講師の運動実技は高齢者でも椅子に座っていても氣楽に出来る運動が基本です。さらに、質の良い睡眠のための漸進的筋弛緩法という身体をリラックス状態に導く「ゆるりら体操」の指導も受けました。実践したいと思います。

断片的には知っているようでも、睡眠について改めて体系的に知る良い機会になりました。睡眠は乳児から高齢者までどの年代でも大切なことには違いありません。上埜氏は日本人には働き方改革とともに眠り方改革も必要だと強調していました。よい睡眠はよい覚醒とのリズミカルな関係が大切のようですが、人それぞれ違っているということも心しておかねばならないようです。　（仙台市　島田昭一）

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 64 号・春／「桃」（momo）

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第 63 号　シリーズ「東日本大震災」【13】―海辺―

「シリーズ「東日本大震災」【13】―海辺―」を読んであの震災の時に生態学者の方々がいろいろ調査してくれていたことを知りました。今年元日に能登半島地震があり改めて自然の脅威を考えさせられました。いつ何が起こるかわかりませんね。
（柴田郡柴田町・56 歳）

編：ご指摘の通り、元日の能登半島での地震の被害を想うと、シリーズ「東日本大震災」も 13 回目をむかえても「過去」の出来事にはできないなと感じますね。

東日本大震災以降、海辺からはなんとなく遠ざかっていたように思います。海辺の再生の力強さから学べることが多いのは驚きでした。　（角田市・65 歳）

編：なんとなく遠ざかってしまうお氣持ちわかります。改めて、自然や地域社会とのつながりを再認識いたしました。これからも自然との調和を大切に、ともに再生に向けて歩んでいきたいですね。

分かりやすく学術研究の成果を説明してくださっている専門家の方々に共感を覚えます。　（利府町・63 歳）

編：共感を持っていただけるのが、研究者の方々にとって大きな励みになることでしょう。引き続きご愛読いただければ幸いです。

また新しい専門分野の学びのきっかけになりました。子ども達にも自分の興味のある分野の仕事についてほしいものです。
（仙台市青葉区・43 歳）

編：いまの研究に携わるようになった経緯を先生方にうかがうと、多くの場合やはり「興味・好奇心」が出発点だったりするようです。研究に限らず、まずはいろいろな分野のことを知ることが大切かもしれませんね。

学びたい講座が集約されており、とても参考になります。
（仙台市泉区・73 歳）

編：ぜひ参加された暁には、『参加体験記』をお送りいただけると嬉しいです。抽選で図書カードプレゼントも実施しておりますよ！

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

5 MAY

前期基礎講座「吉野作造の東アジアをみる眼～吉野作造は中国及び朝鮮をどのように語ったのか」：『日支交渉論』と「満韓を視察して」を中心に月刊誌等の論文を読む（2）
5月11日(土)　14:00▶16:00　無料　要申込

講　師　氏家仁氏（吉野作造記念館館長）

場所 吉野作造記念館　定員 30 名

主催者 吉野作造記念館　問合先 TEL 0229-23-7100

2024 年度第 51 期相談員養成講座
「公開講座」第 2 回「心を支える」
5月19日(日)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　佐藤静氏（宮城教育大学名誉教授）

場所 日立システムズホール 2 階研修室 2

主催者 社会福祉法人仙台いのちの電話　問合先 TEL 022-718-4401

展示関連企画：ふらり蒲生
初夏の干潟を撮る
5月25日(土)　9:30▶12:15　有料　要申込

場所 なかの伝承の丘　定員 15 名（先着）

主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先 TEL 022-390-9022

令和 6 年度　館長講座　第 2 回
「歴史博物館グローバル紀行」
5月25日(土)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　阿子島香氏（東北歴史博物館館長）

場所 東北歴史博物館 3 階講堂　定員 280 名（先着）

主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

連続講座「石川善助を知ろう」②
「石川善助・その詩の成立
―「創作ノート」から―」
5月25日(土)　13:30▶15:00　有料　要申込

講　師　佐藤伸宏氏（東北大学名誉教授）

場所 仙台文学館　定員 60 名（先着）

主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

特別講演会「地域の持続可能性と福祉」
5月25日(土)　15:30▶16:30　無料　申込不要

講　師　伊藤聡子氏（事業創造大学院大学客員教授、フリーキャスター）

場所 江陽グランドホテル　定員 200 名

主催者 東北大学艮陵同窓会　問合先 FAX 022-273-6011

6 JUN

トークイベント「詩人・石川善助との出会いと、100 年前からのメッセージ」
6月 1日(土)　13:30▶15:00　有料　要申込

講　師　木村健司氏（石川善助研究者）聞き手：赤間亜生（仙台文学館副館長）

場所 仙台文学館　定員 60 名（先着）

主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

仙台文学館ゼミナール 2024
『源氏物語』を読む（全 5 回）
6月 8日・7月 6日・9月 7日・10月 5日・26日(土)　10:30▶12:00　有料　要申込

講　師　横溝博氏（東北大学大学院文学研究科教授）　※申込締切 5/14(火)

場所 仙台文学館　定員 70 名

主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

仙台文学館ゼミナール 2024：
小池光 短歌講座　第 162 回
6月 8日(土)　13:30▶15:40　有料　要申込

講　師　小池光氏（歌人）　※申込締切 5/14（火）

場所 仙台文学館　定員 70 名

主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

前期基礎講座「吉野作造の東アジアをみる眼～吉野作造は中国及び朝鮮をどのように語ったのか」：『日支交渉論』と「満韓を視察して」を中心に月刊誌等の論文を読む（3）
6月 8日(土)　14:00▶16:00　無料　要申込

講　師　氏家仁氏（吉野作造記念館館長）

場所 吉野作造記念館　定員 30 名

主催者 吉野作造記念館　問合先 TEL 0229-23-7100